

院内感染 対策だより

第8号

平成15年10月

- ・院内感染対策講習会報告
- ・手洗いを見直そう

院内感染対策チーム（ICT）発行

院内感染対策講習会報告

7月25日に行われた本年度第1回院内感染対策講習会の内容を簡単に紹介します。今回は、地域医療連携を進める上で、感染対策も地域ぐるみで取り組む必要があるとの観点から、会場をいきいき元氣館として、氷見地域の医療および保健関係の施設にアナウンスし、院内外から参加していただきました。

I. 「SARS について知っておきたいこと」

講師：氷見市民病院 外科部長（ICT） 清水 哲朗 氏

SARS（重症急性呼吸器症候群）の現在までの状況、対策、治療法、当院の対策などについて情報提供しました。すでに流行は下火ですが、この秋から冬に再度の流行もあり得るといわれています。常に適切な対策をとり感染を最小限にとどめることができるよう心がけが必要と思われる。

II. 「MRSA の除菌とコスト管理」

講師：ファイザー製薬（株） 学術企画部長 川崎 賢二 氏

昨年に引き続き、川崎先生に MRSA に関する講演をしていただきました。昨年 MRSA の基礎についてお話しいただきましたので、今回は、除菌と院内感染対策のコスト管理についてお話ししました。内容要旨は次のとおりです。

1. イントロダクション

アメリカ CDC ガイドラインによる感染対策に必要なエビデンスを元に、標準予防策と伝播形式（空気感染、飛沫感染、接触感染）別の予防策についておさらいしました。

次に、抗菌薬の適正使用に関する基礎知識として、消化管常在菌の知識、抗菌薬の長期使用による菌交代現象、抗菌薬の適正使用の重要性などについて説明されました。

2. MRSA の除菌

鼻腔、創部、気道などの除菌についてそれぞれ説明されました。この中で、特に気道感染に関して、起炎菌か定着菌かの判定が重要で、定着については、抗結核剤であるリファンピシン（単独または ST 合剤との併用）の有用性を説明されました。また、感染症例では、抗菌薬の長期使用の禁止、サイクリング療法、併用療法のすすめ、ICT 相談薬（VCM、リファンピシン、カルバペネム）などにつきお話しされました。

3. 院内感染対策のコスト管理

感染対策を怠ると、患者様にとっても病院にとっても大きな損失となりますが、日常の対策費用もまた大きく、1日1ベッドあたり500-600円の出費を覚悟しなければならないとのことですが、したがって、感染対策にかかるコストに関する知識も重要で、消毒薬、手袋、マスク、ワクチン接種、賠償費用など具体的な数字を示して説明されました。

以上、7月の院内感染対策講習会の内容を紹介しました。川崎先生のお話の中にありましたが、SYW 症候群（「知ってる、やってる、わかってる」）は感染に対する油断の現れであり、今後も、院内感染対策に対し、職員のみなさんの意識が薄れないよう ICT チーム活動を継続しますので、皆様のご協力をお願いいたします。

「手洗い」を見直そう

第2回病院ふれあいフェスタにおいて、病院スタッフや市民の皆様にも、日頃行っている手洗いでどれだけの汚れが落ちているか体験してもらいました。



- ① 蛍光ローションを手全体に均一に塗る。
- ② 手全体にローションがついているか、ボックスにかざして確認する。
- ③ 流水下で普段と同じように石けんを使用して手を洗う。
- ④ ペーパータオルで手を拭いて再びボックスに手をかざすと、ローションが落ちなかった部分が白く光る。(洗い残しの部分が白く光る)



きれいに洗えたかな？

整形外科医のメンツ
にかけて頑張るぞ！
おみごと！！洗い残
しなし

水だけで洗っても
落ちていない。あれ？
石けん使ってもあまり
落ちてない！よく洗わん
となあ・・・
60代 男性

私は、長い爪がいやで
いつも短く切ってい
ます。汚れがなくてよ
かった！！
70代 女性

わあ～まだ、こんなに
残ってる。きれいに洗
ったつもりなのに！
小学生

洗い残しの多い部分は、指先や指の間、爪の周りなどでした。また、皮膚が荒れていると念入りに洗っても洗い残しが生じます。日頃からスキンケアに心がけてください。

洗ったつもりでも実は洗えていないのです。今回、視覚を通して洗い残しが瞬時にわかり、手洗いの効果が実感できたと思います。

感染防止の基本は、「手洗い」です。石けんを使用するか、消毒材を使用するか、処置前に実施するか、処置後に実施するか、その場その場に合った手洗いを心がけ励行していきたいものです。

たかが手洗い

されど手洗い

編 集 後 記

MRSA, VRE などグラム陽性球菌の多剤耐性菌が世界的規模で話題となっています。最近では、グラム陰性桿菌においてもかつて有効であった抗菌剤に対して多剤耐性を獲得した臨床分離菌が多数出現しています。このような状況下、院内感染対策へのより一層の努力が求められています。多剤耐性菌をただ恐れるのではなく、上手に付き合う方法を習得しましょう。そうすれば、無意味に恐れる必要もなくなると思います。そのためにもこの“院内感染対策だより”が皆様のお役に立てればと願います。

改めてリキャップの危険を認識し、正しい手洗い法をもう一度見直して下さい。正しい手洗いこそ感染予防の重要な鍵だと考えます。我々が患者様を院内感染から守ることは重要であることは言うまでもありませんが、自分自身の身を守ることも大切なことです。正しい知識こそが最大の武器となることでしょう。

編 集 委 員

委員長	清水 哲朗 (外科)	委員	川崎 聡 (内科)
委員	國谷 等 (内科)	委員	矢地 弘子 (看護科)
委員	関 千鶴子 (看護科)	委員	村田 美代子 (看護科)
委員	谷 畑 祐子 (看護科)	委員	小路 聡美 (検査科)
委員	山田 悦子 (リハビリ)	委員	加藤 貴子 (薬剤科)
委員	高野 弘文 (事務局)		

院内感染対策だより 第8号

発行責任者 清水哲朗 (ICT委員長・外科部長)
発行日 平成15年10月1日
発行所 氷見市民病院
院内感染対策チーム (ICT)